

用語集

A

AI

Artificial Intelligenceの略。人工知能。
大まかには「知的な機械、特に、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術」と説明される。

AIオンデマンドバス

時刻表や決まった運行経路がない予約型の乗合バス。
あらかじめ設定した運行エリアに停留所を設定し、利用者の予約に応じてAI（人工知能）を活用して効率的な配車を行う運送サービスで、利用者の利便性向上と輸送コストの低減が期待されている。

I

Iot

Internet of Thingsの略。
様々なモノがインターネットでつながり、離れたところにあるモノの状態を把握して操作したり、サービスを利用したりできる。

M

MaaS

Mobility as a Serviceの略。
ICTを活用して交通をクラウド化（移動手段そのものをクラウドサービスとして提供）し、公共交通か否か、またその運営主体に関わらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を1つのサービスとして捉え、シームレスにつながり新たな移動の概念。利用者はスマートフォンのアプリを用いて、交通手段やルートを検索、利用し、運賃等の決済を行う例が多い。

S

SMI（堺・モビリティ・イノベーション）

堺都心部の活性化に向けた回遊性向上、堺都心部と美原を結ぶ東西交通問題の改善、脱炭素への寄与などをめざし、交通という切り口から、環境、健康福祉、観光、産業振興など様々な分野にわたって堺都心部の魅力向上と活性化を図るプロジェクト。
堺駅～堺東駅間の公共交通について、自動運転などの先進技術の活用や先進的な取組により、安全性や快適性、利便性などの向上を図るSMI都心ラインの導入や、堺都心部と美原をはじめとした市域東部を結ぶ拠点間ネットワークの構築により、人流の活性化や公共交通の利用促進などを図るSMI美原ラインの導入、面的な回遊性向上を図る次世代モビリティの活用、様々な情報やサービスを包括的に提供するCaaSの導入などをめざしている。

あ行

インバウンド

外国人が訪れてくる旅行のこと。

か行

外出人口

居住人口のうちある1日に外出した人口のこと。

外出率

ある1日に外出した人数の全人口（夜間人口）に対する割合のこと。

幹線道路

都市内におけるまとまった交通を受け持ち、都市の骨格を形成する道路のこと。

観光ビジター

観光目的に訪れている旅行者のこと。

カーボンニュートラル

二酸化炭素等の温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成すること。温室効果ガス排出量実質ゼロと同義で使われる。

義務的経費

地方公共団体の歳出のうち、任意に削減できない極めて硬直性が強い経費のこと。職員の給与等の人件費、生活保護費等の扶助費及び地方債の元利償還金等の公債費からなっている。

公共交通

鉄軌道、バス、タクシーなど誰もが一定の料金を支払うことで利用できる交通手段のこと。

公共交通カバー率

バス・鉄道等から一定範囲内に含まれる圏域内に居住する人口の総人口に占める比率。本計画においては、鉄道駅から800m、軌道、バス及び乗合タクシーの停留所（場）から半径300mを圏域とする。

公共車両優先システム（PTPS）

Public Transportation Priority Systemの略。公共交通の定時性確保と利用者の利便性向上、自家用車等からの利用転換の促進を目的として、バス専用・優先レーンの設置、優先信号制御（赤信号の短縮、青信号の延長等）等により、バスなどの公共交通の車両が優先的に通行できるようにするシステムのこと。

交通結節機能

異なる交通手段（場合によっては同じ交通手段）を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎや拠点形成等を担う機能のこと。

交通結節点

異なる交通手段（場合によっては同じ交通手段）を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎ施設で、鉄道駅、バスターミナル、駅前広場などが挙げられる。

公民連携

行政と民間事業者が連携し、地域の活性化や社会課題の解決、新しい価値の提供などに取り組むこと。

さ行

堺都心部

南海高野線堺東駅から南海本線堺駅周辺に至るエリアのこと。

サテライトオフィス

本社からはなれた場所（居住地の近くなど）に立地し、情報通信技術の活用により本社などと連絡を取りながら業務を行う事務所。オフィス形態としては独自のオフィス、シェア型のオフィスに大分される。

事業許可区分

一般旅客運送事業を経営する際に、道路運送法第4条に基づき、国土交通大臣から許可を受けなければならぬ一般旅客自動車運送事業の種別のこと。

次世代モビリティ

超小型モビリティや自動運転などの技術革新により進化した移動手段（モビリティ）のこと。ビッグデータやAI等の先端技術やシェアリングなどのサービスの進化と結びつけ、近未来の快適な移動環境を創造している。

新型コロナウイルス感染症

病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたもの）であるもので、令和2年1月に感染症法に基づく指定感染症と定められ、世界保健機関においては「COVID-19」と名付けられている。現在は感染症法上の5類感染症に位置付けられている。

人口カバー率

特定の施設を中心とした一定の圏域内に居住する人口の総人口に占める比率のこと。

シームレス

「継ぎ目のない」の意味。公共交通分野におけるシームレスとは、乗継ぎ等の交通機関間の「継ぎ目」や交通ターミナル内の歩行や乗降に際しての障害をハード・ソフト両面にわたって解消することにより、出発地から目的地までの移動を全体として円滑かつ利便性の高いものとする。

シェアサイクル

複数の専用駐輪場のどこでも自転車を借りることができ、借りた場所以外にも返すことができるレンタルサイクルシステムのこと。

生成原単位

ある地域に住んでいる人が行う1日1人あたりの平均トリップ数のこと。

ゼロカーボンシティ

2050年に温室効果ガスの排出量または二酸化炭素を実質ゼロにすることをめざす自治体のこと。

た行

第二種免許

乗合バス・タクシーなど旅客運送事業に使われる自動車をその目的のために運転するときに必要な免許のこと。

代表交通手段

鉄道、バス、自動車、二輪(自転車、原付、自動二輪車)、徒歩、その他(飛行機や船等)があり、1つのトリップの中でいくつかの交通手段を用いている場合は主な交通手段を代表交通手段としている。鉄道→バス→自動車→二輪→徒歩の順で優先順位の高いものとする。

脱炭素社会

地球温暖化の原因となる、温室効果ガスの実質的な排出量ゼロを実現する社会のこと。

脱炭素先行地域

2030年度までに民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出実質ゼロを実現するとともに、運輸部門や熱利用等も含めてそのほかの温室効果ガス排出削減についても、国全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域のこと。

タッチ決済

読み取り機にカードやスマートフォンをタッチしたりかざしたりして支払う非接触型の決済方法のこと。

地域公共交通

地域住民の日常生活若しくは社会生活における移動又は観光旅客その他の当該地域を来訪する者の移動のための交通手段として利用される公共交通機関のこと。

地域旅客運送サービス

鉄軌道や路線バス、堺市乗合タクシー、乗用タクシー、その他の送迎サービス等を含めた旅客運送サービスをいう。

低床式車両

路面電車やバスなどで、床面を低く作り、入り口の段差を小さくして乗降しやすくした車両のこと。

鉄軌道

レールを敷いた専用通路上を走行する鉄道と、道路上に敷設された軌道上を走る路面電車の総称。

鉄道端末手段構成

鉄道駅へ行くため、あるいは鉄道駅を降りてからの交通手段構成のこと。

電動キックボード

電動式モーターのついたキックボードで、道路交通法上の「車両」に該当し、定格出力等に応じた車両区分に分類されている。特定小型原動機付自転車に該当するものは、16歳以上であれば運転免許不要（16歳未満は運転禁止）で、ヘルメット着用が努力義務となる等のルールが適用されるが、一般原動機付自転車等に該当するものは運転免許等が必要となる。

デスティネーションキャンペーン

JRグループ6社、地域、旅行会社ほか関係機関が協力して、地域の新たな魅力を発信し誘客する大型観光キャンペーンのこと。

都市計画道路

都市施設として都市計画法に基づいて都市計画決定された道路のこと。

トリップ

人がある目的をもって「ある地点」から「ある地点」へ移動する単位をさす。トリップは、移動の目的が変わるごとに1つのトリップと数える。

な行

ナッジ

行動経済学で、対象者に選択の余地を残しながらも、より良い方向に誘導する手法。ナッジ（nudge）は「ひじで軽く突く」という意味。

乗合タクシー

路線バスと同じように乗り合い形式で、ルートや停留所・時刻表を設定し、利用者から予約があった場合に運行するタクシーのこと。

ワンステップバス

利用者の乗降をより容易にするため、床面地上高を30cm以下まで引き下げることにより、乗降ステップ（階段）を解消したバスのこと。

は行

発生集中量

ある地域内に出発地または到着地を持つ人の移動の合計でトリップエンド（1つのトリップを出発側と到着側をそれぞれトリップエンドという。）を集計したもの。

パーソントリップ調査

パーソントリップ調査（パーソン＝人、トリップ＝動き）とは、「いつ」「どこから」「どこまで」「どのような人が」「どのような目的で」「どのような交通手段を利用して」「移動したのか」について調査し、人の1日のすべての動きをとらえるもの。

バリアフリー

高齢者・障害者等が社会生活していく上での物理的、社会的、制度的、心理的及び情報面での障害（バリア）を除去する（フリー）という考え方。交通バリアフリーとは、高齢者・障害者等が公共交通機関や道路等を円滑に移動できるようにすることを意味している。

フィーダー型

公共交通網において、支線の役割を担い、幹線に接続する輸送形式のこと。

ま行

マイクロツーリズム

自宅からおよそ1時間～2時間圏内の身近な旅行のこと。

モバイルチケット

スマートフォンやタブレットなどのアプリケーションで入場券や乗車券などの情報をキャッシュレスで取得し、情報を取得した機種本体がチケットとなる。利用時にはQRコード、バーコードなどを画面に掲示するなど非接触で利用できる。

モビリティサービス

個々の利用者の移動ニーズに対して、鉄道やバス等の公共交通やシェアサイクルなど、移動をスムーズに行うために提供されるサービスのこと。MaaSやAIを活用したバス、タクシーの運行など、情報通信技術などの先端技術を活用して利用者の利便を増進する新たなサービスの取り組みも行われている。

や行

夜間人口

対象地域における居住人口のこと。

輸送資源

従来の公共交通に加え、自家用有償旅客運送や福祉輸送、スクールバス等、移動や輸送に係る手段全般のこと。

ユニバーサルデザインタクシー

健康な方はもちろんのこと、足腰の弱い高齢者、車椅子使用者、ベビーカー利用の親子連れ、妊娠中の方など、誰もが利用しやすいタクシー車両のこと。

ら行

立地適正化計画

市町村が都市全体の観点から作成する、居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能の立地、公共交通の充実等に関する包括的なマスタープランのこと。

連続立体交差事業

都市部における道路整備の一環として、道路と鉄道との交差点において、鉄道を高架化または地下化することによって、多数の踏切を一挙に除却し、踏切渋滞、事故を解消するなど都市交通を円滑化するとともに、鉄道により分断された市街地の一体化を促進する事業のこと。